科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号: 18001 研究種目: 若手研究(B) 研究期間: 2015~2016

課題番号: 15K18414

研究課題名(和文)LIMホメオドメイン転写因子ISL-1のATL発症・進展への関与

研究課題名(英文)The role of LIM homeodomain transcription factor ISL-1 in leukemogenesis in ATL

研究代表者

石川 千恵 (ISHIKAWA, Chie)

琉球大学・亜熱帯島嶼科学超域研究推進機構・助教

研究者番号:90542358

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文):成人T細胞白血病(ATL)の発症・進展におけるLIMホメオドメイン転写因子ISL-1の役割を検討した。HTLV-1感染T細胞株では非感染T細胞株と比較してISL-1が高頻度に発現していた。HTLV-1感染やウイルスタンパク質TaxによってISL-1の発現が誘導された。非感染T細胞株にISL-1を過剰発現させると、細胞増殖能が有意に増加し、ISL-1の標的遺伝子であるc-mycの発現が増強された。以上より、ATL発症・進展においてISL-1の過剰発現の関与が示唆された。

研究成果の概要(英文): HTLV-1 is the etiological agent of adult T-cell leukemia (ATL). Although the viral protein Tax plays crucial roles for the development of ATL, the underlying mechanisms remain obscure. ISL-1, LIM homeodomain transcription factor, is specifically expressed in certain tissue types only. Recently, ISL-1 is suggested to play an oncogenic role. The expression of ISL-1 was assessed in 8 HTLV-1-infected T-cell lines and 3 uninfected T-cell lines. RT-PCR results demonstrated a marked highly expression of ISL-1 mRNA in 5 HTLV-1-infected T-cell lines. The expression levels of ISL-1 mRNA were associated with those of Tax mRNA. ISL-1 protein was also detected in 3 Tax-positive HTLV-1-infected T-cell lines. HTLV-1 infection and Tax overexpression induced the expression of ISL-1 in T cells. Notably, ISL-1 overexpression promoted T-cell proliferation. Furthermore, ISL-1 activated the expression of c-myc. Our results provide insights into the new relationships between ISL-1 and HTLV-1 oncogenesis.

研究分野: ウイルス発がん

キーワード: 成人T細胞白血病 (ATL) HTLV-1 ISL-1 Tax c-myc

1.研究開始当初の背景

成人 T 細胞白血病 (ATL) は、レトロウイルスである HTLV-1 により引き起こされる難治性の T 細胞性白血病・リンパ腫である。HTLV-1 は乳児期に主に母乳を介して感染し、50 年以上の潜伏期間を経て感染細胞を腫瘍化する。感染初期はウイルスタンパク質 Taxが宿主細胞のシグナル伝達経路の活性化に関わるが、その後に腫瘍細胞は Tax 非依存性となる。細胞生存シグナルの活性化は ATL 発症機構において重要であるが、いまだその詳細は解明されていない。

Insulin enhancer binding protein-1 (ISL-1)は、LIMドメインやホメオドメインを持つ転写因子で、インスリン遺伝子の発現調節に関わる。最近、腫瘍の発生にも関与するという報告が行われているが、ATL における検討はまだ行われていない。

2.研究の目的

本研究では、HTLV-1 感染や ATL における転写因子 ISL-1 の発現・活性化機構を解析し、ISL-1 の ATL 発症・進展への関与を検討する。

3.研究の方法

- (1) HTLV-1 感染 T 細胞株における ISL-1 の発現を RT-PCR 法及びウエスタンブロット法を用いて検討した。
- (2) HTLV-1 感染及びウイルスタンパク質 Tax による ISL-1 の発現誘導を RT-PCR 法で検討した。健常人末梢血単核球 (PBMC)をマイトマイシン C で前処理した HTLV-1 感染細胞株 MT-2 と共培養することで PBMC に HTLV-1 を感染させた。また、カドミウム添加により Tax 発現が誘導される JPX-9 細胞株を用いて、T 細胞株における Tax 誘導性発現を検討した。
- (3) 非感染 T 細胞株である Jurkat に ISL-1 を過剰発現させ、細胞増殖能に及ぼす影響や誘導される遺伝子に関して、WST-8 法及び RT-PCR 法で検討した。遺伝子導入はエレクトロポレーション法を用いて行った。

(4)HTLV-1 感染 T 細胞株や非感染 T 細胞株の 核抽出液を用いてゲルシフトアッセイを行 い、ISL-1 遺伝子プロモーター領域への転写 因子結合能の解析を行った。また、ISL-1 に よる発現誘導が見られた遺伝子 (c-myc) に 関して遺伝子プロモーター領域における ISL-1 の結合能の解析を行った。

4.研究成果

(1)HTLV-1 感染 T 細胞株において ISL-1 発現 を検討した。検討した 8 株中、蛋白質レベル では3株、mRNA レベルでは6株で ISL-1の恒常的発現が認められた。特にウイルス遺伝子 Tax 発現細胞株で ISL-1の強い発現を認めた。一方、非感染 T 細胞株 3 株では発現はみられなかった。これらのことから、HTLV-1感染 T 細胞株、特に Tax 発現細胞株において ISL-1 が過剰に発現していることがわかった。(2)健常人 PBMC に HTLV-1を感染させると、7日後に Tax や IL-2 受容体 鎖の発現とともに ISL-1 mRNA の発現を認めた。 Tax を発現させた JPX-9 細胞を用いて経時的に検討したところ、IL-2 受容体 鎖の発現より 24時間遅れて ISL-1 の発現が確認できた。 ISL-1 発現は HTLV-1 感染や Tax により誘導されることがわかった。

(3)Jurkat 細胞に ISL-1 を過剰発現させたところ有意な増殖能の増加を認め、ISL-1 の標的遺伝子 c-myc の発現が増強していた。ゲルシフトアッセイで c-myc 遺伝子プロモーター領域への ISL-1 の結合能を検討したところ、確認できなかった。

(4) ISL-1 の遺伝子発現制御機構の解析のため、ISL-1 遺伝子プロモーター領域への STAT 及び AP-1 ファミリータンパク質の結合能を検討した。幾つかの感染 T 細胞株の中に転写 因子結合バンドが検出されており、現在結合しているタンパク質の同定を行うとともに、ISL-1 遺伝子プロモーターのレポーターアッセイを予定している。

以上のことから、Tax により発現誘導された ISL-1 が c-myc の発現誘導を介して、細胞増殖を制御していることが明らかになった。ATL 発症・進展への ISL-1 の過剰発現の関与が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

[雑誌論文](計7件)

<u>Chie Ishikawa</u>, Masachika Senba, Naoki Mori. Butein inhibits NF-κB, AP-1 and Akt activation in adult T-cell leukemia/lymphoma. International Journal of Oncology. 印刷中. 查読有.

Chie Ishikawa, Masachika Senba, Naoki Mori. Effects of NVP-BEZ235, a dual phosphatidylinositol 3-kinase/mammalian target of rapamycin inhibitor, on HTLV-1-infected T-cell lines. Oncology Letters. 印刷中. 查読有.

Chie Ishikawa, Takahiro Jomori, Junichi Tanaka, Masachika senba, Naoki Mori. Peridinin, a carotenoid, inhibits proliferation and survival of HTLV-1-infected T-cell lines. International Journal of Oncology. 2016; 49: 1713-1721. 查読有. DOI: 10.3892/ijo.2016.3648.

Chie Ishikawa, Masachika Senba, Naoki Mori. Efficiency of AUY922 in mice with adult T-cell leukemia/lymphoma. Oncology Letters. 2016; 12: 387-392. 查読有. DOI: 10.3892/ol.2016.4624.

Chie Ishikawa, Masachika Senba, Naoki Mori. Induction of IκB- ζ by Epstein-Barr virus latent membrane protein-1 and CD30. International Journal of Oncology. 2015; 47: 2197-2207. 查 読 有 . DOI: 10.3892/ijo.2015.3218.

Chie Ishikawa, Masachika Senba, Betsy J. Barnes, Naoki Mori. Constitutive expression of IRF-5 in HTLV-1-infected T cells. International Journal of Oncology, 2015; 47: 361-369. 查読有. DOI: 10.3892/ijo.2015.3020.

Naoki Mori, <u>Chie Ishikawa</u>, Masachika Senba. Activation of PKC-δ in HTLV-1-infected T cells. International Journal of Oncology, 2015; 46: 1609-1618. 査読有. DOI: 10.3892/ijo.2015.2848.

[学会発表](計12件)

Chie Ishikawa, Naoki Mori. Effects of fucoidan against KSHV-related primary effusion lymphoma both in vitro and in vivo. The 64th Annual Meeting of the Japanese Society for Virology. 平成28年10月23日 ~25 日. 札幌コンベンションセンター (北海道・札幌市).

Naoki Mori, <u>Chie Ishikawa</u>. Anti-ATL activity of cerdulatinib, a novel dual SYK/JAK kinase inhibitor. The 64th Annual Meeting of the Japanese Society for Virology. 平成 28 年 10 月 23 日~25 日. 札幌コンベンションセンター(北海道・札幌市).

Naoki Mori, Chie Ishikawa. Targeting

mitotic kinase PBK/TOPK decreases growth and survival of HTLV-1-infected T-cell lines. The 78th Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. 平成28年10月13日~15日. パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市).

Chie Ishikawa, Naoki Mori. Activity of the novel dual SYK/JAK kinase inhibitor cerdulatinib against ATL. The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 平成 28 年 10 月 6 日~8 日. パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市).

Naoki Mori, <u>Chie Ishikawa</u>. Mitotic kinase PBK/TOPK as a therapeutic target for ATL. The 75th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 平成 28年10月6日~8日. パシフィコ横浜 神奈川県・横浜市)

森直樹,石川千恵. ATLの新規治療標的分子 PBK/TPOK. 第3回日本 HTLV-1学会学術集会. 平成 28 年 8 月 26 日~28 日. 鹿児島県市町村自治会館(鹿児島県・鹿児島市).

Naoki Mori, <u>Chie Ishikawa</u>, Junichi Tanaka. Inhibition of proliferation and survival of HTLV-1 infected T-cell lines by peridinin. The 63rd Annual Meeting of the Japanese Society for Virology. 平成 27 年 11 月 22 日 ~24 日. 福岡国際会議場(福岡県・福岡市).

Chie Ishikawa, Naoki Mori. Activity of the novel dual PI3K/mTOR inhibitor BEZ235 against ATL. The 63rd Annual Meeting of the Japanese Society for Virology. 平成 27 年 11 月 22 日~24 日. 福岡国際会議場(福岡県・福岡市).

Naoki Mori, <u>Chie Ishikawa</u>. Pim-3 kinase as a therapeutic target for ATL. The 77^{th} Annual Meeting of the Japanese Society of Hematology. 平成 27 年 10 月 16 日 \sim 18 日. 石川県立音楽堂(石川県・金沢市).

Chie Ishikawa, Naoki Mori. Activity of the novel dual PI3K/mTOR inhibitor BEZ235 against ATL. The 74th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 平成 27 年 10 月 8 日~10 日. 名古屋国際会議場(愛知

県・名古屋市).

Naoki Mori, <u>Chie Ishikawa</u>. Pim-3 kinase as a therapeutic target for ATL. The 74th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. 平成 27 年 10 月 8 日~10 日. 名古屋国際会議場(愛知県・名古屋市).

森直樹, 石川千恵. ATL に選択的に発現している Pim-3 を分子標的とした新たな治療法の開発. 第2回日本 HTLV-1 学会学術集会. 平成 27 年8月21日~23日. 東京大学医科学研究所講堂(東京都・港区).

[図書](計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号:

出願年月日: 国内外の別:

取得状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号:

取得年月日: 国内外の別:

〔その他〕 ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

石川 千恵 (ISHIKAWA, Chie)

琉球大学・亜熱帯島嶼科学超域研究推進機

構・助教

研究者番号:90542358

(2)研究分担者

なし()

研究者番号:

(3)連携研究者

なし()

研究者番号:

(4)研究協力者 なし()